

# 森の会

MORINOKAI NEWS vol.12

## ニュース12

2014年8月1日発行 編集・発行／森の仲間たち

### I・N・D・E・X

- 先生からのメッセージ ..... 2~4
- 事務職員さんの紹介、会員だより ..... 5
- ゼミ通信、進路状況 ..... 6
- 会計報告 ..... 7
- 役員紹介 ..... 8

## 平成26年度 森の会 総会・懇親会のご案内

**日時** 平成26年**11月16日(日)** 12:00~14:30 (受付11:30~)

**場所** じゅうろくプラザ 1F  
レストラン「ラ・ローゼ・プロヴァンス」  
岐阜市橋本町1丁目10番地11  
JR岐阜駅隣接 (徒歩約2分)

今年もJR岐阜駅前で開催!

**会費** 2,000円 (在学生会は1,000円) 当日受付にてお支払い下さい。  
※会費は2,000円 (在学生会は1,000円) ですが、実際の飲食代金 (アルコール飲み放題) は  
お一人5,000円です。会費との差額は森の会が負担いたします。

### 同封のはがき、またはメールにて出欠をお知らせください。

ご出席・ご欠席に関わらず、同封のはがき (切手不要) に必要事項をご記入の上、ご返信下さい。  
なお、Eメールにてご連絡いただいても結構です。今回残念ながらご欠席の方も、是非とも皆様への近況報告をお寄せ下さい。

### 申込み締切 9月24日(水)

※締切が過ぎてからでもご出席いただけることになったり、託児のご希望がある場合には、森の会事務局までお気軽にご連絡下さい。

### 昨年も楽しく開催!

同窓生・職員を合わせて約40名の参加があり、3月に退官された粕谷先生、津田先生もお迎えし、大変和やかで楽しい会となりました。今年も皆さまお誘い合わせの上、是非ともご参加下さい。



集合写真 2013.11.9 (じゅうろくプラザロビーにて)



受付



総会



粕谷先生と同窓生



津田先生に花束贈呈



### 森の会(岐阜大学地域科学部同窓会)

〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学地域科学部内  
TEL:058-293-3021 E-mail:mori2001@gifu-u.ac.jp  
事務局業務日(月・水・金 9:00~15:00)

# 先生からのメッセージ

## [岐阜大学と二十一年]

## 地域文化講座 ● まつ お ゆきただ 松尾幸忠教授



岐阜大学に奉職して早二十一年、江戸時代、伊勢国に住んでいた関係で東海地区と縁があったのであろうか、岐阜とは結構長いお付き合いになってしまった。岐阜は、地理的に見れば、名古屋という大都会を南に控え、西には近江、京、大阪、南西には伊勢、北は北陸へと通じるその中心に位置し、実に地の利に恵まれた場所である。この地の利の重要性は、日本史の中においてこの地域が果たした役割を見れば一目瞭然としている。そのような地に拠点を構える大学の学部として地域科学部が存在することは、ある意味歴史的必然性があったのかもしれない。海が無いことを除けば、岐阜は緑に恵まれ、歴史のある街、或いは温泉等で有名な多くの観光地があり、銘酒も多く、他郷から来た人間にとっては誠に羨ましい限りである。

ところが残念なことに、自分の専門領域は、これら岐阜の優れた点とは全く関係の無い、中国古典文学、唐宋の詩文であった。教養部から地域科学部に移籍が決まった時、正直なところ、どう学部教育と関わってよいのか全く見当が付かなかった。当

初は学部内における陸の孤島を覚悟していたが、よくよく考えてみれば、地域研究という点では全く無縁とは言い切れなかったのだ。なぜなら、自分の研究テーマは、中国における実態としての歌枕（＝詩跡）の歴史的展開、つまり、中国における或る地域が、その地ゆかりの詩歌によって文化人たちに認識され有名になってゆく、その様々な形態を研究していたからである。

しかしそう言うものの、やはり地元に根ざした地域研究と、中国が対象の地域研究とでは親近感が異なる。結局、創設以来、この研究テーマを卒業論文に選んだ学生は一人もいなかった。が、中国に関心を持つ学生はほぼ毎年いてくれて、彼らのおかげで何とか専門セミナーを続けることが出来たのは有り難かった。特に一期生、二期生達と中国の詩跡の調査旅行に付き合ってもらったのは良い思い出である。これからも学生の関心との接点を探りつつ、中国の様々な姿を紹介していきたいと思う。



## [成人期の発達課題]

## 地域環境講座 ● がっしょう あきら 合掌 顕准教授

地域科学部に赴任してから16年目になる。その当時は学部最若手と言われていたが、今は立派な中堅どころである（実力はともかく年齢的には）。発達心理学者のエリクソンによれば、この時期の発達課題は「アイデンティティの再確立」ということになる。「自分の生き方はこれでよかったのか？」と自分に問い直す時期だというのだ。このような点から今の状況を振り返ってみると、私生活ではこの年で4歳児の父親はなかなかハードだが、これはこれで楽しい経験だ。

一方で研究の方はどうか？ ご存知の方も多いかと思うが、私の研究室は情報が「過剰（無駄に）」に蓄積されているので、資料を探すのも一苦労だが、最近「発見」した私の学部の卒業論文は「住み心地」に関するものであった。私の研究に対する関心は簡単に言えば「快適性」や「快適な暮らし」とは何かということだが、これを見ると（まだまだ初歩的ではあるけれども）

当初からあまり考え方は変わっていなかったわけである。その後、現在に至るまで「快適性」に関わる研究が続けているが、関心はよりそのメカニズムに踏み込んだものにシフトしている。具体的には、視覚や聴覚、体性感覚といった個々の感覚器官から入ってくる情報がどのように組み合わせられて「快適（または不快）」という感覚が生起されるのか、このメカニズムを解明するのが課題だ。この「総合的」な快適感を人の注意との関連から解明しようとしているのが近年の課題だが、実はこのアイデアは大学院の時に友人に送ったメールの中に既に記述があった。当時はまだ「どうやって注意を測るのか」が全く手がかりもない状況でアイデアだけのものだったが、今は注意の指標の一つとして考えられる視線の動きに注目し、その挙動との関連から快適な環境を考えている。

こうやって振り返ってみると、それなりに発達の課題はクリアしているようだ。

## [よりよい社会への熱意を大切に]

### 地域政策講座 ● にいだともゆき 新井田智幸助教



はじめまして。今年度から地域科学部に着任して、社会政策論や経済政策の講義を担当しています。まだ学生とは2か月くらいしか接していませんが、ここの学生はとても真面目だなという印象を持っています。それは単に講義の出席率のことをいっているのではなく、講義で取り上げる問題に対して、しっかり考えていることが伝わってくるからです。

政策論という性格上、講義では現在の社会問題を紹介しつつ話をすることが多いのですが、貧困や格差の問題、非正規雇用の待遇の問題などについて話すと、なんとか解決できないものかというコメントが多く寄せられます。こうした話題を出すと、自分は正社員になれるように就活をがんばる、といったような反応がみられがちなのですが（もちろんそういう声もありますし、それも悪いことではないのですが）、個人的にどう回避するかよりも、社会的にこうした状況を改善しなければならないと考える学生が多いことには、予想をいい方に裏切られた気がしました。

現代では大学での教育も、学生の市場価値を高めるためのように思われている節がありますが、それにとどまらず、社会を見る目を養い、社会を良くしていこうという熱意を高めてもらってこそ、公器としての大学の役割を果たせると思います。それを担えるような学生がここに集まっているのだらうと期待しています。

私の研究関心は、日本的雇用システムが変化を遂げつつあるといわれている現在の状況を分析することにあります。これは企業の行動だけでなく、経済的状況、社会政策、教育システムのあり方など様々なものと関わっています。こうした大きな社会構造がどう変化しうのかについての経済理論や経済思想を踏まえて、日本の雇用の未来を考えていきたいと思っています。

熱意ある学生から刺激を受けつつ、一緒に成長していけるようがんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## [地域史を学ぶということ]

### 地域構造講座 ● ひとみきちこ 人見佐知子助教

岐阜大学に赴任して早三ヶ月が過ぎようとしている。

自治体の合併やコミュニティの解体など、新自由主義の影響は地域に顕著な影響を及ぼしてきた。そうしたなか、市民の生活の場としての地域に注目し、地域の再生に資する地域の歴史資料に関心が向けられてきた。ここでいう、地域の歴史資料とは、登録文化財などのそれとは異なる。地域の歴史を語るすべての史料を価値ある歴史遺産とする。それを地域歴史遺産という。個々人の営みを個々人のものだけにとどめるのではなく、社会や歴史的文脈に位置づけ、それを基礎に社会を構築していくために、個々人が生きられた場である地域を語る歴史資料に注目が集まっているのである。

岐阜大学にはおよそ五万点におよぶ地域の歴史を語る豊富な史料が所蔵されている。現在その利用のための整理作業を進めている。多くの史料群を前にしてわたしは、グローバリゼーショ

ンの進展による地域の疲弊状況のなかで、歴史研究者としてそこにいかにコミットするかという課題を突きつけられていると感じている。

先日、地域学実習の一環として、岐阜町まちあるきを行った。初めて岐阜町をおとすれる学生もいれば、何度もおとすれたことのある学生もあったが、総じて歴史的な関心を抱きながら岐阜町をおとすれるのは初めての体験であるようであった。わたしの地域学実習は、個々人が生きられた場である地域を語る歴史資料への関心を高めることを目標として行っている。地域歴史遺産は、地域に「ある」のではなく、歴史研究者と地域住民が共同して価値づけることで「歴史遺産」に「なる」。将来、学生たちが地域の歴史的形成を明らかにするための基礎をなす地域歴史遺産の保全・活用の担い手となってくれば、というのがわたしの願いである。

# 先生からのメッセージ



## 【旅するように暮らす】

4月に赴任してから2ヶ月以上が過ぎましたが、研究室の片付けもまだ半分くらいしか終わっていないのに、学会などでの出張が続く、なかなか落ち着くことができない毎日を過ごしています。とはいえ文化人類学の研究を始めてから現在まで、どこか一ヶ所に落ち着いて暮らすという生活とは無縁の日々を送ってきたことを考えれば、これが私の日常であるともいうことができるかと思えます。

私が文化人類学の道に入ったのは修士課程に進学してからで、当時は大学のある北海道沿岸の捕鯨活動についての調査をしていました。道内とはいえ車で一日かけてやっとたどりつくような網走や釧路、函館といった地域がフィールドだったので、一回調査地に行くとき車や安宿に泊まりながら、しばらく現地に滞在することになります。季節によって漁場を帰る捕鯨船を追って、時には北海道を飛び出し和歌山県の太地町や宮城県の大鹿半島にも足を伸ばし、札幌の家よりほかの場所で寝ることのほうが多い月もありました。

## 地域構造講座 ● やまぐち み か こ 山口未花子助教

それでも国内の調査であれば、自宅を離れる期間はたかが知れていましたが、博士課程に入り、カナダ先住民の研究をはじめると、さらに『一ヶ所に落ち着く』ことから遠ざかることになりました。私の調査地のあるカナダ、ユーコン準州は、日本から数日かけてやっとたどり着くような僻地です。従って、移動時間だけでも一週間を見なくてはなりません。さらに現地で狩猟のために深い森の中に小旅行をする場合、獲物が取れるまで数週間町に戻れないこともあります。ですから、ある程度の期間を確保しなければ調査自体ができないわけです。

調査を終えて心身ともに疲れ果てて帰ってくると、しばらく日本でのんびりしたいと思ったりするのですが、なぜか1ヶ月も過ぎるとまた次の調査計画を練り始める、ということを経りかえし、今に至るというわけです。さすがに学生のころのように一年の半分以上を調査地で過ごすことはできない身の上となりましたが、これからは岐阜というあたらしいフィールドの魅力をそこに暮らすことを通じて探っていければと考えています。皆様もぜひ私の情報提供者として岐阜（大学）の魅力を教えていただければ幸いです。

## 退職・転任された先生のご紹介

平成26年3月31日をもって退職・転任された先生は次のとおりです。

### 定年退職

- 有本 信昭 教授（地域政策講座 協同組合論）
- 粕谷 志郎 教授（地域環境講座 環境衛生学）
- 津田 雅夫 教授（地域文化講座 思想・文化史）
- 口藏 幸雄 教授（地域構造講座 生態人類学）

### 転任

- 三崎 和志 准教授（地域文化講座 現代思想）  
（私立東京慈恵会医科大学国領校へ）

## 新しく着任された先生のご紹介

平成26年4月1日をもって着任された先生は次のとおりです。

- 新井田 智幸 助教（地域政策講座 経済学）
- 人見 佐知子 助教（地域構造講座 近現代史）
- 山口 未花子 助教（地域構造講座 人類学）

## 事務職員さんの紹介

事務部 管理係 ほり てつろう 堀 哲朗 さん

こんにちは。地域科学部で事務をしております、堀 哲朗と申します。

平成22年8月に地域科学部へ学務系の職員として異動してから、早いもので4年間も経ってしまいました。昨年8月に管理係に配置換えとなりましたが、今も毎日この職場で働いていただけることは、自分でもとても幸運なことだと思います。

異動当初は、環境の違いに戸惑いもありましたが、上司や同僚のみなさんから日々フォローしてもらい、仕事にも徐々に慣れていくことができました。先生方にも大変親切にさせていただいて、難しい要望を引き受けていただいたり、諸々の話を聞いていただいたりと、職場の内外ですっとお世話になりっぱなしの状態です。周りの方達には面倒をお掛けする毎日ですが、この先少しずつ精進を重ねてお返ししていきたいと思います。

学務系の業務では、学生さんに直接関わる業務なので大変やり甲斐がありますが、自分の対応ひとつで、学生さんの大学生活を左右してしまう可能性があることにプレッ

シャーを感じることも多くありました。そんな中で、学生さんが顔を合わせて挨拶してくれたり、卒業してからも覚えていてくれたときは、とても励みになりました。管理係になってからは学生さんや卒業生の方達と接する機会は少なくなりましたが、先生方の研究活動や学生さんの大学生活を陰ながらサポートしていきたいと考えています。

また、昨年は年に一度の森の会の懇親会に出席させていただいて、懐かしい皆さんから近況を伺い、楽しい時間を過ごすことができました。そのような貴重な機会をいただいたことに大変感謝しております。



## 会員だより

### 徒然なるままに、

第4期生 やまだ ゆきひろ 山田 悠希弘

私が卒業して早10数年経つようです。就職した年を既に覚えていないくらいです。ですが、仕事上の知識や経験は身につきました。社会生活を送るうえで必要なものは取り入れ、捨てていくことを体現しています。その中でも変わらないことがあります。自身が疑問に思ったことは、解決方法が分からなくても必ず気に留めておくことです。勿論、答えをもらったりすることだってあるでしょう。しかし、それは真に自分の答えでしょうか。どう判断してその方法を導き出すのか。その過程を通らないと自分の力にはならないのではないかと、そう思います。自身で消化しなければ、他人へ説明することも、再びその応用がかった問題も解けない状況に陥ってしまうでしょう。そんな私は医療現場で働いています。課によって仕事の内容は大きく異なります。最初は務まるのかという不安と業務の流れを理解するのに苦しんだ覚えがあります。

入社当初に指導頂いた上司には手取り足取り教えて頂き、今日も働けています。仕事ができるのは、周りの方の協力があるお蔭です。今回、縁がありまして会報を書かせて頂きましたが、これも津田セミナーの会合があつての賜です。自分の動き方や個々の繋がりで状況は変えることができ、さらには周囲にもその変化を与えることができます。ただ、それは良し悪しがありますが。私の10数年を簡単に600字程度で振り返ってみましたがかがでしたか。よく分かりませんよね。私より若い方に一つ言えるのは、20代はあっという間に終わるので心残りが無いよう楽しんでください。最後まで読んで頂き有難うございました。

## ゼミ通信④

# 粕谷 セミナー

### 第1期生

## 鷺見 祥子



粕谷研究室第一期生の鷺見祥子です。今回、粕谷ゼミの思い出をとのことでお話をいただきました。3月1日、岐阜大学サテライトキャンパスで粕谷志郎教授の最終講義が行われました。卒業生をはじめ地域科学部の先生方や市民団体の方々など100名を超える聴講者だったとのこと。粕谷先生との思い出を語るときがありませんが、先生に初めてお会いしたのは子どものころ父に連れられて行った学祭で先生が所属する山岳部の写真展を見たときでした。幼心に山男みたいな人だなあと思ったのを今でも覚えています。

地域科学部への進学を決めたのも粕谷先生がいらっしゃったからと言っても過言ではありません。粕谷研究室では肺吸虫の宿主であるサワガニを捕りに下呂や浜松へ行ったり、宮田吸虫の統計を取るために木曽三川の鮎を漁協に分けてもらいに行ったり、アニサキスを採取するためにスルメイカをさばいたり、クリプトスポリジウムの検出の為にボートで河川水を汲んだりいろいろな経験をさせていただきました。検体を採取後に研究室で調理してゼミ生で食べたのもいい思い出です。

地域科学部に入学して早18年あっという間でしたが、大学院進学、就職、結婚、出産、その節目には必ず先生に助言をいただき今の私があるような気がします。

これから先生は副業（！？）の医師としてのんびりされるとおっしゃってみえましたがまたゼミ生一同で先生のお宅にお邪魔したいと考えています。

粕谷先生長い間お疲れ様でした。



2014.3.1 最終講義後の懇親会にて

## 進路状況

### 学部進路

2014年3月卒業生進路状況（2014年5月1日現在；カッコ内は人数で1名の場合は省略）

#### 公務員(28)

財務省  
総務省  
農林水産省  
名古屋国税局  
岐阜県庁(5)  
愛知県庁(2)  
岐阜県警察  
いなべ市役所  
安城市役所  
稲沢市役所  
羽島市役所  
刈谷市役所  
各務原市役所(3)  
関市役所  
小牧市役所  
大垣市役所(3)  
池田町役場  
安八町役場  
幸田町役場

#### 建設・製造業(17)

ミサワホーム東海  
希望社  
市川工務店  
東栄製紙工業  
エクシールコーポレーション  
ジャストコーポレーション  
岐阜プラスチック工業  
菱江産業  
ラプリークィーン  
吉岡  
倉敷紡績  
カインダストリーズ  
オンダ製作所  
宝工業所  
日本特殊陶業  
デンソー  
津田工業

#### 運輸・情報・通信業(8)

JR東海  
コネクシオ  
ミクスネットワーク  
テクノア  
トヨタマップマスター  
リプラス  
豊通シスコム  
ターゲッティング

#### 金融・保険業(16)

大垣共立銀行(4)  
十六銀行(2)  
三菱東京UFJ銀行  
三菱UFJ信託銀行  
SMBCフレンド証券  
東京海上日動火災保険  
あいおいニッセイ同和損害保険  
かんぽ生命保険(2)  
アドバンスクリエイト  
十六ディーシーカード  
JAあいち信連

#### 医療・福祉・教育業(9)

医療法人尾張健友会  
岐阜県総合医療センター(2)  
社会医療法人蘇西厚生会  
日本赤十字社  
名古屋市総合リハビリテーション事業団  
名古屋市立大学  
MAXISセントラル  
エイコス

#### 不動産・物品賃貸業(3)

ハートランド  
コマツレンタル  
ヤマシタコーポレーション

#### 卸・小売業(5)

アルフレッサ日建産業  
ヤマガタヤ産業  
三輪器械  
八神製作所  
ヒマラヤ

#### サービス業(6)

チューキョー  
若尾綜合舞台  
廣和  
西建設計  
エイチ・アイ・エス  
農協観光

#### その他(3)

愛知県生活協同組合  
JA富山中央会  
JAとうと

#### 進学(5)

岐阜大学大学院地域科学研究科(5)

## 研究科進路

2014年3月修士進路状況（2014年5月1日現在）

#### 公務員(2)

垂井町役場  
中国・北京税務局

#### 建設・製造業(2)

アビ  
ボンフォーム

#### サービス業(1)

日本プロパワー

#### 医療・福祉・教育業(3)

医療法人愛整会北斗病院  
クレマティス岐阜  
プロジェクトリーズ

#### 進学(1)

岐阜大学大学院連合農学研究科

# 平成25年度会計報告

自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日

(単位：円、小文字は内訳)

## ●収入の部

項 目	決算額
会 費 (10,000円×83名)	830,000
懇親会費 (2,000円×38名)	76,000
受取利息	3,077
当 期 収 入 合 計	909,077
前 年 度 繰 越 金	1,287,108
収 入 合 計	2,196,185

## ●支出の部

項 目	決算額
事 業 費	556,894
会報等印刷費	335,244
会報等郵送費	121,650
卒業・修了祝会祝金	100,000
大学フェア賛助金	0
事 務 費	396,098
人件費	351,557
事務用品費	43,575
通信費	966
会 議 費	101,692
諸会費	0
役員会雑費	25,372
交通費	76,320
総 会 費	209,705
懇親会経費	209,705
予 備 費	0
当 期 支 出 合 計	1,264,389
当 期 予 備 費 合 計	0
支 出 合 計	1,264,389

項 目	収入の部	支出の部	差引計
次年度繰越金	2,196,185	1,264,389	931,796

## ●資産保管状況

項 目	現在高
現 金	0
普通預金	
十六銀行	931,796
郵便局	0
定期預金	
十六銀行	8,000,000
合 計	8,931,796

帳簿及び証拠書類を監査した結果、上記のとおり相違ありません。

平成26年5月18日

監 査 祖父江 利佳

監 査 伊藤 健人



森の会の皆さま、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

森の会は、2013年度の大学14期ご卒業、大学院12期ご修了の方々を新たにお迎えし、正会員数1,715人の同窓会となりました。年々大きな森に成長しています。

森の会の活動の中心は、年に1回の総会・懇親会。学際的な地域科学部らしく「異業種交流会」のような楽しさがあります。また、社会人として先生方と交わす会話も弾み、とても楽しい時間が流れます。お越しになっていただきやすいように会場は岐阜駅前ですので、今年も多くの方々のご参加をお待ちしております。

岐阜大学のホームページには森の会の情報も掲載されております。また、facebookにも「岐阜大学地域科学部同窓会森の会」のウォールを設けておりますので、情報交換の場としてご活用ください。

皆さまがこれからもお健やかに、素敵に活躍されることを祈りつつ、秋の総会・懇親会での再会を心待ちにしております。

森の会 会長 <sup>あまい あきこ</sup> 浅井 彰子

## 平成26年度 森の会役員

会 長／浅井 彰子①

副会長／浅野 善信① 石黒 好美① 都築 尚子①

幹事長／中山 智隆③

幹 事／伊藤 雅浩① 加地和歌子① 眞鍋 陽子① 笠原 正博⑩

平野 純里①① 藤井 敬子①① 野村 惇貴②② 小塩 里予⑭ 西野 公美⑭

会 計／荒瀬 修三③ 伊藤 悠貴④

監 査／祖父江利佳① 伊藤 健人③

(氏名の後の○の数字は、期生を表します ①…第1期生)

森の会 会員数 1,715名

(平成26年4月1日現在)

## 新役員の紹介

第14期生 <sup>おじお さとよ</sup> 小塩 里予 (幹事)



こんにちは。私は現在、福祉用具を扱う会社で働いています。仕事は失敗もたくさんあり、落ち込む事もありますが、気持ちは前向きにがんばっています。

私は学生時代、軽度な知的障害を持ったり、自宅での学習が困難な子どもをサポートするNPO法人ポポロで、学生スタッフをしていました。はじめの頃はこのような世界に接点がなく、責任や重さを感じることもありましたが、分からないなりに考えながら行動していくことで、子どもから話しかけて来てくれるようになったり、難しい問題を根気よく教え続けた時に子どもが「わかった!」と言ってくれた時の一緒に嬉しい気持ちに

なれたことがすごく心に残っています。恐る恐るではありますが、少しずつ自分から働きかけるようになり、とても楽しく活動することができました。くよくよ悩んでも仕方ない、まずは行動を起こしてみる、失敗しても前向きに行動してみる、その繰り返しは大変ですが、その先にきっと見えてくるものがあるのだと思います。以前の私は、自分にはできない、と考えがちでしたが、もっと自信を持って、全力で挑戦していくことが私にとって大切で、成長につながると考えるようになりました。

今、まだ社会に出たばかりで、これから様々な人に出会っていくのだと思い、その出会いを大切にしていきたいです。こんな風に思うのは、大学時代にたくさんの子どものそばに関わる方々とのお会いできた事が大きかったのではないかと思います。厚くお礼申し上げます。

## 「岐阜大学地域科学部同窓会 森の会」Facebook ページ！

森の会からのお知らせや、森の会会員の情報交換、近況報告、活動紹介などに気軽に活用してくださいね。

ぜひぜひ、Facebook 森の会に参加を！

### 連絡先

森の会(岐阜大学地域科学部同窓会)

〒501-1193

岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内

TEL:058-293-3021

FAX:058-293-3008

E-mail:mori2001@gifu-u.ac.jp

事務局業務日(月・水・金 9:00~15:00)



森の会アドレスに  
簡単にアクセス  
できます



図書館がリニューアルされました。